

今日のゴール

★ 総勘定元帳の期首から期末までの一連の流れを理解する

SECTION 01

総勘定元帳とは

総勘定元帳とは、各勘定科目（現金・売上・仕入など）の増減をまとめて記録する帳簿である。

なぜ総勘定元帳を作るのか

仕訳帳には日付順に取引が並んでいるため、「売上の残高はいくらか」「現金の内訳は何か」を知りたいとき、全仕訳を一つひとつ確認・集計する手間がかかる。

総勘定元帳は勘定科目ごとに取引をまとめるため、残高や内訳をすぐに把握できる。

転記とは

仕訳帳に書いた仕訳を、総勘定元帳の各勘定科目に書き写す作業を転記という。

SECTION 02

転記のルール

仕訳を総勘定元帳へ転記するときは、次の3つのルールにしたがって記入する。

3つのルール

ルール① 仕訳の左（借方）にある勘定は元帳の左へ、右（貸方）にある勘定は元帳の右へ記載する

ルール② 日付を記入する

ルール③ 相手勘定科目を記入する。相手が2つ以上のときは「諸口」と書く

例題 | 仕訳から総勘定元帳への転記

仕訳

10月1日 現金で商品 10,000円を売上げた。

借方（左）

現金 10,000

貸方（右）

売上 10,000

↓ 転記（ルール①②③にしたがって書き写す）

現金		売上	
10/1	売上 10,000	10/1	現金 10,000

解説

仕訳の左（借方）に現金 → 現金勘定の左に記入。日付「10/1」と相手科目「売上」を書く。

仕訳の右（貸方）に売上 → 売上勘定の右に記入。日付「10/1」と相手科目「現金」を書く。

SECTION 03

収益・費用の1年の流れ

収益・費用は1年ごとにリセットされる。期首はゼロからスタートし、決算で損益勘定へ振り替えて締め切る。

① 期首（4月1日） — 収益・費用はゼロからスタート

残高の引継ぎなし

資産・負債・純資産と異なり、収益・費用は前期の数字を引き継がない。期首の元帳は空欄からはじまる。

② 期中・決算整理仕訳 — 発生のつど転記する

仕訳例：4/2 売掛金 5,000 ／ 売上 5,000

売上	
4/2	売掛金 5,000

③ 損益振替・締め（3月31日） — 損益勘定へ振り替えて締め切る

振替仕訳：3/31 売上 5,000 ／ 損益 5,000

売上	
3/31	損益 5,000
4/2	売掛金 5,000
5,000	5,000

ポイント

損益振替で左（借方）に「損益」を記入することで借方・貸方の合計が一致し、元帳を締め切る（二重線を引く）。翌期は再びゼロから始まる。

SECTION 04

資産・負債・純資産の1年の流れ

資産・負債・純資産は前期の残高を引き継ぐ。期首に前期繰越を記入してスタートし、決算で次期繰越を記入して締め切る。

① 期首（4月1日） — 前期繰越を記入してスタート

前 期（締め後）			当 期（期首）		
現金			現金		
	3/31	次期繰越 50,000	4/1	前期繰越	50,000
50,000		50,000			

② 期中・決算整理仕訳 — 発生のつど転記する

仕訳例：4/2 現金 2,000 ／ 売上 2,000

現金	
4/1 前期繰越	50,000
4/2 売上	2,000

③ 決算・締め（3月31日） — 次期繰越を記入して締め切る

現金	
4/1 前期繰越	50,000
4/2 売上	2,000
52,000	3/31 次期繰越 52,000

ポイント
次期繰越は残高（借方合計－貸方合計）を貸方に記入することで、両側の合計を一致させる。二重線を引いて締め切り、翌期首に同額を借方「前期繰越」として書き直す。

今日のまとめ

総勘定元帳の期首から期末までの一連の流れ

転記＝仕訳を勘定科目ごとに書き写す作業。左→左・右→右・日付・相手科目を記入

★ 収益・費用＝期首ゼロスタート→期中転記→損益振替で締め切り

資産・負債・純資産＝前期繰越でスタート→期中転記→次期繰越で締め切り